

サハリンアウトリーチ

2015年7月11日～22日



SAKHALIN OUTREACH

≈ REAPORT ≈

— 2015 July 11th to 22th —



サハリアウトリーチ スケジュール表

(2015年7月11日～7月22日)

CFNJ聖書学院

日時	活動予定	日時	活動予定
11 (土)	PM 国際線出発ロビー 16:00 集合!!! 新千歳 19:45 発 (HZ152 便) →ユジノサハリンスク 21:55着 ユジノサハリンスク泊	17 (金)	AM マリノフカ村 <アウトリーチ> ……40km離れた場所 ★ストリート・ミーティング (路傍伝道) PM 夜:集会 (*ポロナイスクにて) ポロナイスク泊
12 (日)	AM 礼拝奉仕 (ユジノサハリンスクの教会) (*ピーター監督の教会) PM 17時~「ピュリティ・セミナー」&奉仕 (*コーリヤさん宅近くの古くからの教会) ★諸教会の合同ユース(13~17才)セミナー ユジノサハリンスク泊	18 (土)	AM PM メイスコイエ村&ティクメネヴォ村 <アウトリーチ> ……互いに12Km離れた場所 ★2つの村でストリート・ミーティング 夕方…田上さんお見舞い 博物館 (研究員セルゲーさん) ポロナイスク泊
13 (月)	AM PM ドリンスク(落合) <ガールズキャンプ> →北に 40km ユジノサハリンスク泊	19 (日)	AM ポロナイスク教会で礼拝 (*エレーナ先生の教会-キリストの平和教会) PM 体育館で教会員とスポーツ交流 ポロナイスク泊
14 (火)	AM コルサコフ<集会 or アウトリーチ>…40km離れた場所 (*デミトリ牧師 & 韓国の聖書学院生と共に) PM ユジノサハリンスク泊	20 (月)	AM ポロナイスク教会の方々と交わり PM ユジノサハリンスクへ移動 ユジノサハリンスク泊
15 (水)	AM 博物館 PM (休日) ユジノサハリンスク泊	21 (火)	AM 山登り、スパ etc. PM 夜・ユジノサハリンスク <集会 or アウトリーチ> (*コーリヤさん宅近くの古くからの教会) ★チャーチミーティング ユジノサハリンスク泊
16 (木)	AM PM ポロナイスクへ移動 ポロナイスク泊	22 (水)	AM ユジノサハリンスク 12:00発 (HZ151便) →新千歳 12:20 着 PM

備考/注意

- 出発時：集合時間…16:00 厳守、集合場所…新千歳空港「国際線出発ロビー」
- スケジュールは、現地で、突然変更になる場合がありますので、事前の説明に注意してください。
- 各自、自分の荷物は責任を持って確認をしてください。
- 毎日… 6:00 起床、6:30~ デボーション (*コーリヤさん宅にて学生主導)、7:00~ 朝食、8:00~ 活動開始

7月11日(土)

新千歳空港にて、フライトが大幅に遅れ、空港に22時半頃着
エレナ先生、パリーニャさん、ピーター監督と奥さんが空港で出迎え
コーリャさん運転で、23時半コーリャさん宅到着 →学生はピーター監督の家、コーリャさん宅へ
→先生方、スタッフはホテルへ

7月12日(日)

各お宅で 朝のデボーション

10時 ピーター監督の教会で日曜礼拝
ロシア語の賛美、私たちの紹介
さくらさくら
鹿のように(手話つき)
紀子先生の証
鍛冶川先生のサマリアの女の話・・・岩盤を砕け!!
ピーター監督の病気の癒しの祈り
ロシアの兄弟姉妹たちのために癒しの祈り
記念撮影 終了

16時 コーリャさん宅にて 昼食
若者対象:ピュリティーセミナー(ピーター監督家隣のペンテコステ教会にて)
Mighty Warrior
ホザナ
昇平兄弟の証
スキット Redeemer
麗名姉妹の証
グドール先生 ピュリティーセミナー
エレナ先生 ジョーロのプレゼント
パパイヤじゃんけん
記念撮影 終了

7月13日(月)

各お宅で 朝のデボーション

13時 コーリャさん宅で昼食→自由時間
16時 ピーター監督隣の教会で ハートのスキット、メッセージのリハーサル
ドリンスクのキャンプ場へ移動
20時 集会スタート
紀子先生 挨拶
Mighty Warrior
ゲーム パパイヤじゃんけん(アイスブレイク)
神の国とその義とを
拓実兄弟の証
スキット ハート
紀子先生 ハートのスキットに合わせてメッセージ
ゲーム 風船リレー、しっぽ取りゲーム 景品渡し
ホザナ 賛美(ロシア側の先生のリクエストにより)
ロシア側の先生 ショートメッセージ
お互いにハグと挨拶&お礼の夕食、お茶、スイーツを振舞われる・・・名残惜しく解散

7月14日(火)

各お宅で 朝のデボーション

12時半 コーリャさん宅 集合 モールへ(フードコートで昼食)
夕方 港近くのコルサコフ 韓国教会にて集会
洋子姉妹 MC
鍛冶川先生 挨拶
花も タンバリン
神の国とその義とを
寛子姉妹の証
ホザナ
清憲兄弟の証
スキット Redeemer
グドール先生 メッセージ
韓国人宣教師 挨拶/韓国人神学生によるダンス
ロシア人牧師 挨拶 終了 →お茶会、韓国神学生達よりチョコのお土産。

7月15日(水) A Day Off

各お宅で 朝のデボーション

昼食 コーリヤさん宅

13時 博物館 見学

自由市場 モール

16時 韓国レストラン 各一人ずつ アウトリーチ中間地点で感想を述べた。

夕方~ コーリヤさん、奥さんとチーム数名一キャンピングカーで山登り・帰りは海辺でお茶会

7月16日(木)

各お宅で 朝のデボーション

昼食 コーリヤさん宅

13時 ユジノサハリンスクから ポロナイスクに移動

中間地点 (15ルーブル支払いのトイレ休憩) タラバガニと花咲ガニ7パイ買う

(↑紀子先生のおごり!ごちそうさまでした!)

夕方頃 ポロナイスク エレーナ先生の教会 到着

民族衣装とパンと塩の歓迎、花シャワー、教会で豪華な夕食

ロシアの賛美を歌い 各ホームステイ先に移動

7月17日(金)

各お宅で 朝のデボーション/教会で朝食

10時 ロシア語賛美、グドール先生による ショートメッセージ

マリノフカ村にて路傍伝道

昇平兄弟 賛美リード 浴衣、はっぴの紹介

さくらさくら

神の国とその義とを

一輝兄弟の証

スキット Redeemer

清憲兄弟 スキットに基づいたメッセージ

スキット ハート

お菓子を見に来てくれた人々に配る 終了

昼食 近くの店にて一さくらさくら 披露

夜 エレーナ先生の教会で夜の集会ロシア語賛美

グドール先生 メッセージ

教会のメンバーとコーリヤさんバスに乗り、祈りながらポロナイスク市内を周る→解散

7月18日(土)

各お宅で 朝のデボーション/教会にて朝食

13時 メイスコイエ村 路傍伝道

昇平兄弟 賛美リード 浴衣、はっぴの紹介

さくらさくら

神の国とその義とを

スキット Redeemer

洋子姉妹の証

敏一兄弟 メッセージ

~14時半頃 交わり みんなにアメを配る

15時 ティクメネヴォ村 路傍伝道

昇平兄弟 賛美リード 浴衣、はっぴの紹介

さくらさくら

Mighty Warrior

スキット Redeemer

文姉妹の証

清憲兄弟 メッセージ

来てくださった若者たちと交わり アメを配る

16時

海辺で昼食

田上さんのおられる病院へお見舞い

みんなで賛美、祈り、記念撮影・・・ロシアのおばあちゃんたちにも賛美と祈り

研究員セルゲーさんの博物館案内(大鵬の銅像を見に行く)

エレーナ先生の教会に戻ると花シャワー、ぬいぐるみと教会メンバーの歓迎!!

夕食後 各家に帰宅

7月19日（日）

各お宅で 朝のデボーション／教会にて朝食
10時半頃 日曜礼拝 スタート！！
ロシア語賛美 Victor 牧師あいさつ
鍛冶川先生 挨拶
昇平兄弟 賛美リード
さくらさくら
鹿のように（手話）
紀子先生 証
スキット Redeemer
石田先生 メッセージ

この日は、
鍛冶川先生ご夫妻の
結婚36周年記念日であり、
教会から花束の祝福を
頂きました！

昼食

15時~16時 近所の体育館でスポーツ交わり（ロシアの子供たち、大人たちと楽しく交流）
夕食前まで自由時間
19時 コーリヤさんバスにて海辺に行き鮭を買いに行く。
教会にて夕食
21時 エレーナ先生宅で、お茶会&証

7月20日（月）

各お宅で 朝のデボーション／教会にて朝食
~13時前 ポロナイスク教会の人々と交流
13時 ポロナイスクからユジノサハリンスクまで移動。
20時頃 コーリヤさん宅 到着 夕食

7月21日（火）

各お宅で 朝のデボーション
9時半 コーリヤさんバスにて 山登りー山上でアンドレーさんに会う
昼前 モールにて買い物
13時半~16時半スパにて 昼食
17時 帰宅 夕食各自
19時半 ピーター監督隣の教会にて 最後の集会
ロシア側の牧師先生あいさつ
昇平兄弟 賛美リード
さくらさくら
鹿のように（手話）
ホザナ
紀子先生の証、鍛冶川先生の歌とギター演奏
スキット Redeemer
石田先生 メッセージ
22時前 みんなと交流、ハグ、祈り、握手
記念撮影 ロシア側の教会からマグカップギフト。
コーリヤさん宅にみんな戻ってお茶会

7月22日（水）

各お宅で 朝のデボーション
9時頃 コーリヤさん宅から空港へ
みんなと別れを惜しむ
エレーナ先生より、
記念メダルのギフトを！

12時 ユジノから新千歳へ
12時すぎ到着



22年ぶりにサハリンへ

CFNJ学院長 鍛治川 利文

素晴らしいイエス様の御名を賛美します。今回、学院のアウトリーチとして、22年ぶりにサハリンに行くことが出来ました。全行程を終えて、祝福のうちに無事に帰国することが出来たことを心から神様に感謝致します！本当に祝福に溢れたアウトリーチでした。ハレルヤ！

当初、今年は3か国の予定で、中国とミャンマーにも行くつもりでしたが、現地の受け入れ態勢が整わないという理由から、サハリン一本で行くこととなり、サハリンのほうからも20名なら受け入れ可能であるという連絡もいただき、全員でサハリン行くことに決定しました。行先も決まり、経済的にも旅費や献金も充分集まり、準備も順調に進み、後は出発の日を待つだけと期待に胸を膨らませていた所、突然、行く直前に思いもよらない事が起こりました。ビザ申請の為にロシア側の書類に記入ミスがあり、2名の学生が（堀本姉と山本姉）一緒に行くことができなくなってしまったのです。私自身、行く直前のアウトリーチの心得として、全員にアウトリーチのトラベルには必ず、トラブルが起こるのだという話しをしていて、予測不可能な事が旅行中には起こるものだ伝えていましたが、しかし、行く直前にこのような事が起こってしまい戸惑いました。そしてチームの代表として2名の学生には、とても申し訳ない気持ちで一杯でした。しかし、2人にその事を伝えたと、残ることに同意してくれて、そしてそれだけでなく、「旅行中もとりの祈りに専念しています！」とってくれました。この言葉にとっても感激しました。2人とも突然の事で、当然、残念な思いがあるのに宣教の為に祝福して送り出してくれたのです。この出来事があり、むしろ私は今回のアウトリーチが特別な使命と祝福があることを確信しました。本当にこの2人と共に送り出してくれた学生や支援者の皆様に感謝を言いたいと思います。

今回、7月11日から22日までの11日間の日程で、サハリンの中心都市、ユジノサハリンスク（旧豊原）から港町のコルサコフ（旧大泊）、そして、ユジノから北に300キロ離れた以前の国境の町、ポロナイスク（旧敷香）という町に行きました。11日間に3つの町と3つの村の教会や路傍で約10回の集会や奉仕をしてきました。とても忙しく、中身の濃いアウトリーチでした。そして何よりも、今回、22年ぶりにサハリンを訪れ、その変化にとっても驚きました。22年前の時は、東西の鉄のカーテンが降りソ連邦が崩壊し、ペレストロイカが始まった直後で、国は混乱して、人々の顔は不安と無気力な暗い表情ばかりでしたが、でも今回、再び訪れて、人々の表情は明るく活気に満ちて、スーパーにはたくさんの商品がそろい、日本とあまり変わらないくらいでした。モールやレストランなどもあり、サハリンが確実に豊かになっていることを実感しました。道も整備され、以前の泥とホコリの穴ぼこ道はあまり見当た

らなく、サハリンの人々の生活は確実に変化しています。でも変わらないものは、当時と同じく私たちを歓迎してくれる、教会のクリスチャンたちの心でした。ようこそ！ズドラーストビツェ！（こんにちは）と迎えてくれる、その歓迎に感動しました。特にポロナイスクの教会の皆さんの趣向を凝らした歓迎ぶりには感激しました。日本から見るロシア人に対するイメージはチームのみんなも劇的に変わったと思います。そして、更に劇的に変わったのは22年前に比べると、教会が増え、成長し、宣教が拡大していることです。今年、天に凱旋された小林茂樹牧師の長きにわたる種まきの実を実際に見ることが出来ました。そして、現地の教会の祈りとして、これからサハリンがロシア全体へのリバイバルの発信地になるようにという祈りを聞きました。サハリンに着いた翌日の礼拝の中で、サハリン全体の監督者でもあるピーター牧師が、この祈りを捧げていました。サハリンの教会は今、新たなステージに進もうとしているのが分かります。神様はサハリンを通してロシアを変えるために、新しい働きを起こそうとしておられると感じました。日本とサハリンは近くて遠く感じる隣人でした。でもこのアウトリーチで、日本にとってサハリンの地は同じ列島に連なる、近くて近い神の家族です。この宣教旅行を通して、これからも交わりを深め、共にリバイバルの発信地となっていくように神様は願っておられると思います。

このアウトリーチの為に祈り、捧げ、支えて下さったすべての神の家族の皆さんに感謝を申し上げます。また、今回、特別に同行して下さいました講師の石田先生、又、送り出してくださった聖協団の教会の皆様、又、何よりもピーター監督と奥様、特にピーター監督はガンの宣告を受けていたのにも関わらず、私たちのチームを快く受け入れて下さいました。そして、私たちチームを全行程で支えて下さったビクトリー先生やエレナ先生、忙し中、運転手を務めてくれたコーリア兄弟、奥様、そして、愛するサハリンの兄弟姉妹に心からの感謝を申し上げます。そして、最後にこのアウトリーチの全てを導いて下さった神様に感謝と賛美を捧げます！ハレルヤ！



“神のなさはすべて時になんて美しい” 副学院長 鍛冶川 紀子

22年前のサハリンアウトリーチは、CFNJの海外アウトリーチの中で、最も記憶に残る

ハードでエキサイティングなアウトリーチでしたが、今回私たちが体験したことは、又しても過去最高の恵みに満ちたアウトリーチだったとすることができます。癌と言う病と闘いながら、チームを歓迎し、お世話してくださった、ピーター監督と奥様、期間中、仕事と家庭を犠牲にして仕えてくださったコーリヤさんと奥様、そして勿論、すべての行程を導き助け、数え切れないほどの準備とお世話をしてくださったエレナ&ビクター牧師夫妻、チーム全員のために三度三度、最高の食事でもてなしてくださった愛と御霊に満ちた、ユジノとポロナイスクのご婦人たち、これほどまでに温かく心のこもった歓迎とおもてなしを受けたアウトリーチは、今までにありませんでした。しかも、それを楽しみながらユーモアとジョークを交えながらやっていたのける、心の広さとゆとり、すべてがキリストの愛によるミニストリーでした。チーム全員が感じていることですが、サハリンを祝福したくて、たくさんの祈りを積み、献金を携え、賛美や証、スキットやメッセージを携えていった私たちでしたが、かえって受けることのほうが多い12日間でした。感謝・感謝・感謝！！

個人的には、74歳にしてチームの一員として全行程に参加し、学生たちと共に主を賛美し、タンバリンや踊り、さらに三箇所の教会で主の恵みと憐れみよる贖いの証をさせていただくことができ、感謝でした。日本語～英語～ロシア語と言う、時間のかかる証の内容を、グドール師とエレナ師の絶妙のコンビネーションで、まったく滞りなく伝えることができたことは、大きな奇跡と言っても過言ではないほどの恵みでした。グドール先生、エレナ先生、ありがとうございました。又、文子さんとパリーナにも感謝しています。



又今回は、戦前からサハリンに在住する、田上さんを病院に見舞い、賛美や祈り、お土産などで祝福することができました。帰国後、7/27に田上さんが88歳で天に凱旋されたとの知らせを受け、私たちが彼女にお会いできたのは、正に主のタイミングであったこと、“神のなさはすべて時になんて美しい”と思知らされました。ハレルヤ！

そして、CFNJチームメンバーのみなさん、あなた方は最高です。ハードなスケジュールにも、誰一人不平不満を言わず、従順であったことは、大きな勝利であり、私たちの誇りです。本当にありがとうございます。今回のアウトリーチを通して、大きく成長できたと信じます。

最後に、このアウトリーチのために取り成し祈り、たくさんの献金をささげてくださったみなさん、ありがとうございました。みなさんの祈りと捧げものは、しっかりとサハリンの地に届きました。皆様の上に、主の報いと、恵み、祝福が豊かにありますように。

すべての栄光を主にお返しして・・・スパシーバ！・・・オーチン、ハラショー！！

たくさんの方が、サハリン・アウトリーチのために献金をささげ、祈ってくださったことを心より感謝し致します。短く報告させていただきます。

■ロシア人に対するイメージ

一般的にロシア人に対するイメージはあまり良くないと思います。少し冷たくて、堅い表情の人たちであるなどと考えられているようです。しかし、サハリンに行って、直接ロシア人会ってみると、笑顔の、優しい人たちです。私は以前に二度サハリンを訪れていますが、今回改めて、ロシア人のやさしさや美しい笑顔に接して、とてもうれしくなりました。また、ユーモアの大好きなロシア人もたくさんいました。このレポートを読んでいるあなたも、機会があれば、ぜひロシア人会ってみてください。きっとイメージが変わると思います。

■病のいやし

サハリンに到着した次の日の日曜日、州都ユジノサハリンスクのグッドニュース教会に行き、礼拝に出席しました。肝臓のあたりが知識のことばによって示されて、発表したら、礼拝後に5,6名の方が祈ってもらうために出てきました。この教会は、神のいやしを信じており、近くにある癌治療専門病院の医者でさえ、重症の癌患者に「グッドニュース教会に行って祈ってもらいなさい。あそこに行っても治らなかつたら、あなたは治らない」などと、勧めることがあるそうです。今までに癌がいやされた人が4人います、と証していました。ハレルヤ！

※この教会の牧師であるピーター・ヤーモリユク師は、サハリンを含む東シベリアにある340ものペンテコステ教会の監督をしている方です。最近ピーター監督は首に悪性のがんの腫瘍ができました。私たちも祈る機会が与えられましたが、その後ピーター監督は治療のため韓国に行き、7月末現在、腫瘍の60%が取り除かれ、快方に向かっているとのことです。続けてピーター監督の健康のためにお祈りください。

■未来から現在と過去を見る

アウトリーチ期間中、同行してくださった、キリスト聖協団札幌教会の石田吉男先生がエレミヤ29:11から力強いメッセージと証しをしてくださいました。現地のロシア人クリスチャンは大いに励まされ、感動の涙を流して聞き、メッセージ後に、石田先生を力強くハグしていました。同時通訳をしていた私にも、このみことばが、ストンと入り、今も心に響いています。

●我々に対する主の計画は、わざわざではない。幸いであり、平安を与える計画であり、将来と希望を与えるものだ。●現在からだけ過去を見ると空しい思いしか残らない。●現在からだけ未来を見ると不安と恐れしか残らない。●しかし、主にある、明るい、幸いな、平安を与える未来から過去を見ると、過去はすべて赦されおり、感謝できる。(ヘブル10:17) ●この平安を与える未来から現在を見ると、主は全てを益にしてくださることを知る。(ローマ8:28) それゆえ、今現在を、喜びをもって生きることができる。●クリスチャンであっても、過去にとらわれていたり、現在にだけ目を留めていると悩んでしまう。

主にある未来から過去を見、現在を見ましょう！ 感謝を込めて、グドール ジェラルド

17人と一匹

札幌教会 石田 吉男

この度、鍛冶川先生ご夫妻はじめ、グドール先生、坂本兄姉、そして学院生の皆様と共に、アウトリーチに参加させていただきましたことを心から感謝いたします。出発直前、ロシア側の手違いからでしょうか、2人が参加できなかったことは本当に残念でしたね。お2人の分迄とはいかないのですが、一匹が皆様の手足まといにならないようにと思いつつ、何とかご協力が出来たのではと、ホットしております。

CFNJのアウトリーチは素晴らしかったですね。学院生の一人一人がよく訓練され、登場場面では、賛美、証し、日本舞踊、そしてスキット、いずれも神様が用いて下さり、素晴らしかったですね。ロシア人、サハリンの諸教会には大きな感動と祝福と恵みになりましたね。ハレルヤ！

またメッセージでは、よくまとめられた鍛冶川先生の「ガンバン!!!」グドール先生のメッセージとジョーク「コバラスキー タラバガニタベ オオハラショー」で腹を抱えて笑ってしまい、さらにお腹が空いてホテルで食べたカップラーメンの美味しかったこと。何と言っても紀子先生の存在と証に圧倒され、自らも発奮させられてしまいました。演劇家というより芸術家ですね。改めて賞賛をお送りします。

全スケジュールの為にいろいろな手配を頂いた坂本兄姉に感謝します。スキットで十字架のイエスを平手打ちにする坂本姉のシーンは、真に迫りなかなかのものでしたよ。

この期間中にユダヤ人宣教への道が開かれ、デミトリー師、アレクシー師、ポロナイスクの市長さんとアブラハムさんにお会いで出来、外にサハリンに約束の民が200人から300人いることを知らされ、今後のミニストリーの大きなチャレンジを頂きました。



お迎えてくださった、ピータ監督、エレナ先生、コーリアさんによろしくお伝えください。

今後、CFNJが時代の要請に答えられますように、そして学院生の皆様が証人としてさらに成長されますように祝福をお祈りいたします。

2015, 7, 28

シャローム 石田

サハリン・アウトリーチでの導き

スタッフ 坂本 麗名

ハレルヤ！

創造主である父なる神と、私たちの救い主イエス・キリストの御名を誉めたたえます。

今回のサハリン・アウトリーチへ参加できたことを心から感謝します！サハリンへの導きを受け取ってから出発に至るまで、すべての準備を進めるなか、神さまの助けと好意がいつも私たちとともにありました。また、ユジノ・サハリンスクの空港に到着してから旅の間中ずっと、日本に帰るまでの期間、絶えず、迎え入れてくださったサハリンの教会の方々の大きな愛と喜びとに支えられ、神の家族にある素晴らしい交わりを持つことができたことに感動しています。

サハリンの教会の兄弟姉妹との交わりのなかで、文化や言葉を超えて愛し合う家族のきずなを体験できたことを感謝しています。また、キリストを愛し、キリストに仕える者として、一緒にさまざまな場所で御国のために働くことができたことは、私の人生において宝となる経験でした。失われた魂をイエス・キリストの元へと導く情熱と愛をもって行動しているサハリンの兄弟姉妹たちの姿に大きな励ましを受けました。

学院生の皆さんが、それぞれ神さまから与えられた証しと賜物を用いてサハリンの人々に伝え、互いに愛し合っている姿を見て、神さまが日々おひとりおひとりを導き、訓練していた結果である実を豊かに実らせている様子に感動しました。アウトリーチを導いて下さった先生方による油注がれたメッセージと証しを聞いて、アウトリーチ期間中ずっと神さまが良いお方であることを味わいました。

すべてが感動的なアウトリーチでしたが、私にとってのサハリンは出会いの宝庫でした。至る場所で見知らぬ若者たちから日本語で話しかけられたので、彼らを教会に誘い、イエス様を紹介することができました。また、旅先でトラブルにあってしまった日本人ツアーリストとの偶然の出会いでも、救い主イエス様を伝え、ともに祈ることができました。路傍伝道でのメッセージを熱心に聞き入る女性に出会い、現地の教会の方が愛をもってフォローアップしている姿を何度も見ました。これらの出会いを通して、神さまがサハリンで大きく働かれているのを感じています。これから神様が行われる良いご計画の成就のために、みことばと祈りをもって御霊の導きに更にしたがっていきたい、という大きな期待でいっぱいです。

サハリン・アウトリーチのために、真心からの祈りとご支援をくださった神の家族の皆さまに心からの感謝をもって、神さまの豊かな祝福と守りがありますように心よりお祈り申し上げます。皆さまのお祈りはサハリンで豊かに応えられています！ありがとうございました。シャローム！

多くの方の祈りに支えられサハリンアウトリーチに行くことが出来たこと感謝します。現地コーディネーターのエレーナ先生、サハリンの教会の人々のもてなす心に感動しました。

ポロナイスクにバスで入るさいに一般道路にテープをはり、私達を迎えてくださり、その後、教会の入り口で、民族衣装で迎えてくださり、バラの花びらが天井の一部が開きそこから降ってきたことに驚きました。

また、私達が居る間。教会員の婦人方が私達の食事のために教会に泊まり込みで準備をしてくださってこと、もてなす心が溢れている人々でその心が私の心に伝わって、喜びで満たしてくださいました。

ルカ 6 : 38

与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。

「人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらうからです。」

与えることをサハリンの出会った人々が実践しているからこそ、多くのことを与えていると感じました。それは、他の人に心を分け与えることで、主の御心が私達に注がれることを思うアウトリーでした。



アウトリーチのすべてを導き、力強く働かれておられた主に心から感謝し、御名を賛美します。

今回、わたしはスキットチームのリーダーでもありました。

練習の中盤に、スキットチームのメンバーの1人が、登録の手違いにより、アウトリーチに参加することが出来なくなってしまいました。しかし、主はすべてに良い計画をお持ちであり、新しく体制を整え、残り短い時間ではありましたが、出発前には準備が出来たことを感謝しています。また、アウトリーチ期間中に、スキットが様々な場所で大いに用いられたことは、とても嬉しいことでした。

他にも、ポロナイスク近辺の村々でイエス・キリストの福音を伝える機会に預らせていただいたことは、良い経験であり恵みでした。

村の人々の、真剣に話を聞く姿勢や、飢え渴きをもち、主の救いに応答されている姿は、とても美しく感動的なものでした。

これからも、村々で福音を伝えている方を覚えて祈り続けて行こうと思います。

また、日本と同じように、東の果てにある国サハリンの諸教会と、共に主に祈り、礼拝を捧げることができたことは、すばらしい恵みでした。なぜなら、聖書では、「神の栄光は東のほうから現れ、その栄光で地が輝く。」と書かれているからです。

日本とサハリンは、東の果てのリバイバルの栄光を西へ運ぶ器として、主に用いられることを期待しています。

エゼキエル書

43:1 彼は私を東向きの門に連れて行った。

43:2 すると、イスラエルの神の栄光が東のほうから現れた。その音は大水のとどろきのようであって、地はその栄光で輝いた。

43:3 私が見た幻の様子は、私がかつてこの町を滅ぼすために来たときに見た幻のようであり、またその幻は、かつて私がケバル川のほとりで見た幻のようでもあった。それで、私はひれ伏した。

43:4 主の栄光が東向きの門を通過して宮に入って来た。

43:5 霊は私を引き上げ、私を内庭に連れて行った。なんと、主の栄光は神殿に満ちていた。

今回の、サハリン・アウトリーチを通して多くのすばらしい体験をすることが出来ました。日本で、尊い捧げ者をしてくださった方や祈りの宣教師として共に働かれた兄弟姉妹にも心から感謝をしております。これからの日本とサハリンは、多くの宣教師を世界に派遣する宣教大国となることを信じております。

今回、サハリンに行って感じたことを幾つかあげていきたいと思います。

まず、僕は行く前から不安がありました。はじめていく土地、初めて会う人たち、アウトリーチの大変さ、いろんなことを聞き、自分の心は平安な状態ではありませんでした。期待よりも不安の方が大きかったです。その気持ちを持ったまま出発の日を迎えました。そして、サハリンに着いてから行く前に、朝美さんやかおりさん、クリスさんが、みんなのために祈って、つくってくれた御言葉の書いてあるしおりを思い出しました。そこには申命記 31:8 が書かれていました。「主ご自身があなたの先を進まれる。主があなたと共におられる。」僕はこの御言葉に励まされ、力を受けました。「すべて主に委ねよう。神さまが共にいてくださる。」そう思えるようになりました。ほんとに感謝します。

そして、文化は違っても、原語が違っても、賛美の歌詞がわからなくても、私たちは同じ神さまを見上げているんだと思いました。賛美の中で同じ神さまを賛美しているんだあ。また私たちチームを心から歓迎してくれました。

すごく感動しました。そして、神の家族として迎えてくれているなあと感じました。神さまの祝福を流しに来たのに、逆にすごく恵みを受けました。サハリンの人たちの愛をすごく感じました。

サハリンに着いてからの2、3日は長いなと思っていました。でも、終わってみると早かったなあと思います。神さまの愛、恵み、また主は日々、新しい道をつくって、自分の前を歩いてくださることを感じたアウトリーチでした。



サハリンに行く事に決まった時、正直「サハリンかぁ」って思いました（笑）

しかし、アウトリーチを終えた今は、感謝と喜びにあふれています！また、非常に成長できたと思います！陰で祈り支えて下さった方々、献金して下さった方々、サハリンで温かく迎えて下さった方々、全ての見えない部分での皆さんの奉仕に感謝します！祝福がありますように。

✓サハリンで語られた事を3つ挙げます。

1. 共有の力

自分たちの良い部分などを与え、また相手から良い部分を受けることで、お互いの徳を高め合っていく事が共有であり、大事なことだという事が分かりました。そして、共有というのは出ていく人を通してなされていくものだと思います。自分（個人）の良い部分、自分の通っている教会の良い部分などを、出ていく先々で提供するのです。このようにして、他の人や教会の成長を前進させることができます。また、出ていく人も良い部分を行く先々で受け取って成長します。

結果的に、出ていく事に損はなく、むしろ益しかないという事です！出ていく人は、現地で良いものを得ます。出ていく人を受け入れる現地の方々も、良いものを受け取ります。陰で支え、とりなし祈り、献金したりする人々も祝福を何倍にも神様から受けます！

これこそ、キリストの体の成長だと思います！キリストの体の成長は出ていく人を通して、共有の働きによってなされていくものだと思います。なので、もっと出ていく人になります！

2. 文化は宣教のために用意されたもの

（サハリンで、日本の文化を用いて伝道するときにかたられました。）

国々にある色といえる文化の違いは、国同士の分裂や争いのためにあるのではなく、イエスにあって一つとなるためのツールだという事を思いました。人々は、その国の色（特徴・文化・伝統など）を見て、感動して心を開きます。宣教に用いやすいのが文化です！

違いというのは、神様を伝えるために用意されているものだと思います。

人間一人ひとりにある色（性格・賜物・特徴など）の違いも、同じく宣教のためにあると思います。救いの証に違いがあるのもそうです。個人の色でさえも宣教のために用意されています。

また、違いがなければ共有の必要もありません。宣教は共有です！



3. 言語の壁の破壊

枚数が足りないので多くは書けませんが、日本語が使えない中で、言語を超えたコミュニケーションが言語以上に重要だと分かりました！

サハリンのアウトリーチを終えて

石井 敏一

主と、そして多くの兄弟の祈りと共に、サハリンのアウトリーチに参加し、無事帰って来ました。スパシーバー（ありがとう）でした。

マリノフカ・メイスコイエ・ティクメネブオの各村に行きました。日本人が行く事により、多くの村民の興味を引きつけ、ロシアの兄弟で行うよりも、より多くの村民が来られました。ハレルヤ感謝します。

コーリヤーさんの家にて8人がお世話になりました。今までに300人の方を受け入れておられ、慣れているとはいえ大変だったと思います。スパシーバー！！

ほとんど、3回の食事の用意をして下さった、奥さんのナーデアさん本当にありがとうございます。私は、その家にある大きな祝福を見ました。また、子供さんやお孫さんが自然に出入りしておられ、そのうるわしい姿を見せていただきました。

私も、過去に3回ほどホームステイを、受け入れさせていただいたことがあって、少しは、その大変さが分かります。でも、旅人や主にある兄弟へのもてなしは、その家の祝福であることを、感じました。それは、みことば（神の意志）の実体化以外の何ものでもないからです。神の意志の現れている（行われている）処に神の実存を見る。

飛行機にて1時間半くらいで、行くことができる場所ですが、今ある環境とは全く違った、水道、電器、トイレ事情なので、分かっていた、とはいえ実際大変でした。多くのことに不便を感じました。日本は、世界一ぐらいの生活環境だということを、実感しました。これも、それも、どれも慣れだと思いますが、今ある現状には感謝します。



この11日間のサハリンアウトリーチが私の中で、成功だったのかどうだったのかは、これからの私の信仰姿勢に、かかっているように感じます。ハレルヤ！！全ての事に感謝します。

初めての海外アウトリーチ

石井 洋子

行く前の準備から帰ってからレポートを書き冊子に仕上げるまでがアウトリーチ、と気合いを入れて臨んだアウトリーチでしたが、すべてのことを主が導いておられるという事を強く感じたアウトリーチでした。

一番印象的だったのが、キリストの平和教会（エレナ先生の教会）での歓迎セレモニーと数々のびっくりアイデアで楽しませてもらったことです。帰り際、ほどけないビニール紐でくくられた靴は、聖句を暗唱すればカットしてもらえとか、玄関のドアを開けるとゴム紐でくくられた沢山のぬいぐるみが飛んでくるとか、花びらが舞い降りてくるとか、靴の中にキャンディーが入った袋が入っているとか、等々です。準備をするのも大変だったでしょうし、私たちを楽しませようとして下さるそのお心遣いと教会員の方々の仕える姿に感激しました。

ガールズキャンプでは、ミニストリーをしていくうちに参加している子供たちの表情の変化がはっきり分かり、最後にはとても喜んで泣いている人たちがいて、言葉の壁を超えて打ち解け合うことができ、ほんとうに良かったと思いました。

2つの村でのストリート・ミーティングでは、小さな子どもから年配まで幅広い層の方々が沢山来られて、暑い中熱心に聞いて下さって感謝でした。浴衣を着て踊り、スキット（ハート）もし、証もさせていただいて、主が用いてくださったことに感謝しました。

滞在期間中お世話して下さったエレナ先生はじめ教会員の方々、また宿泊させていただいたお宅のコーリャさんと奥様にとっても感謝しています。特に奥様のナーディアさんが、普段からおられる下宿者の方々と私たち8名という大人数にも関わらず喜んで仕えておられる姿に教えられました。

祈りのチームはじめ多くの方々のお祈りに支えられ、主がサハリンアウトリーチを祝福して下さったことを感謝しています。



イザヤ書43：19

「見よわたしは新しいことをする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたはそれを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける」

ハレルヤ！今回、初めてのアウトリーチにサハリンに導かれたことを感謝します。たくさんの出会いがあり、たくさんの祝福を受けて、たくさんの事を学びました。私がアウトリーチで心に残った事、教えられた事がありました。心に残った事は3日目の子供キャンプで私が証する機会がありました。緊張し、目の前には20人～30人くらいの子供が座っていました。私の心の中では証を聞いてくれるのか？という不安もありました。しかし、神様は私に力を与えてくださり、緊張せずに落ち着いて話す事ができました。また、子供たちが証を真剣に聞いて、その後のゲームや賛美メッセージで子供たちの顔の表情が変わっていき集会が終わった後には笑顔になっていったことが私にとって大きな喜びでした。

教えられた事は、第二次世界対戦の間日本人は朝鮮人を強制的にサハリンに連れて行き、戦争が終わっても日本政府とソ連政府は朝鮮人を祖国に返さないと帰れなかった、たくさんの朝鮮人がいました。サハリンには朝鮮系のロシア人がたくさんいます。4日目にコルサコフで韓国の神学生との集会がありました。

集会中の賛美と祈りの中で神様は日本と韓国が一つになる事を願っていると感じました。集会が終わった後に韓国の神学生と交わる機会がありました。

お互いに自己紹介し、仲良くなり私は韓国と心の距離が近くなれたと感じました。日本と韓国の和解のために神様はサハリンを日本と韓国の橋渡しとして用いておられることに、私は大きな発見であり感謝しました。

今回、サハリンに導かれ集会で共に祈り、賛美を捧げる中でそこに神の臨在があり、楽しみと喜びがありました。ロシア語の賛美、ことばがわからなくても心が満たされ、神様がサハリンの上に働き、サハリンを用いておられることを感じました。神様は今後サハリンの上に新しい事をされる事、日本とサハリンがますますキリストにあって一致していくことを期待していきたいです。

また、サハリンのために祈っていきたいです。チームの上に一致があり福音を伝える喜びがあり、11日間祝福されたアウトリーチでした。本当に感謝です。

今回、初めてサハリンという特別な場所へ行けた事、また、流し出すよりも沢山の恵みと愛を受け、ただ神様の御業を体験し、祈りに支えられ、主の御手の中でこのアウトリーチを無事終えることが出来たことを心から感謝いたします。

今回のアウトリーチは、日ごろ学んでいる事の実践や体験をしたように思いました。あまりにも恵みが多く、愛を受け、霊的な勝利や役割を知り、私自身癒され、また解放、チームの大切さなど、実際的な事から、主の御手の守りによって運ばれ、砕かれ、教えられ、弱さを見せられ、課題まで、書ききれないほどとても濃厚な期間となりました。

なので、今回は特に心に残った出来事をお分かちさせていただきます。

私は初めピーター監督のお宅でホームステイをさせていただきました。奥さんのリディアさんは毎朝温かいコーヒーやおいしい朝食を用意してくださり、時にはゆっくりとお交わりをし、様々な事を話してくださいました。彼女はとても自然体で、特別な事ではないかもしれませんが、（もちろん私たちにとっても良くしてくださり、最良の環境を整えて下さっていましたが）私の心は彼女の日常の何気ない一つ一つを通して自然とほぐれていき、癒しを体験しました。私は、彼女を通して、ヨハネ 15:4 より「わたしにとどまりなさい。」この御言葉を目で見、神さまが直接教えて下さったように思いました。

しかし彼女の夫のピーター監督は病気のため次の日、韓国に行かなければならなかったのです。彼女は言っていました。「私は神さまに仕えているから、夫が病でもあなたたちを迎える。たとえこれで夫が死んでも私は大丈夫・・・だから心配しなくてもいい。」と。彼女に出会えた事は、私の人生に大きな影響を与えました。出会えた事を神様に感謝します。

「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」ヨハネ 13:15 この御言葉が思い起こされました。

彼女をと通して受けたイエス様の愛を、同じように、彼女から受けたように、私もしてい



たいと思われました。主は人を通して働かれ、癒しを与え、導かれることを感謝しつつ、すべての栄光を主にお帰しします。

サハリンアウトリーチでの恵み

本村 寛子

10日間は毎日が盛り沢山で、一日一日主に拠り頼んだ日々でした。毎日が完全燃焼で神様の祝福によって体も心も日々リセット出来たから、乗り切れたと思います。突然のスキット代役は驚きましたが、主が導いているならと信じて、一心に振りを覚え、神様の栄光を表すんだ！という思いで演じれました。子供伝道、証、ゲームMCなど用いて下さり、いつも落ち着いてできたのも、沢山の人々の祈りのサポートによって支えられたと思います。祈りのサポートがどれだけ力があるかって事も強く感じました。

また向こうに行き、必ずしていたことは神の武具の装着です、姉妹と共に必ず毎朝神の武具（エペソ6：14～17）をジェスチャー付きで装着してました。それによって、内側から力を得て、大きくぶれることなく、前に進んでいくことが出来ました。

サハリンで信仰の模範となる女性達に出会いました。ユジノサハリンスクでお世話になったピーター監督の奥様、リディアさんは、ピーターさんが病で韓国に行った後も、落ち着いていて、私達を心からもてなし、沢山のお話をしてくれました。またずっと一緒に行動を共にしたエレナ先生はユーモアと賜物が豊富で、御霊の力強さを感じる方で、コーリヤさんの奥様、ナディアさんも肝っ玉お姉さんの様に真のある女性でした。神様が引き合わせてくださった恵みに感謝です。

教会の兄弟姉妹たちの熱烈な歓迎に神様の愛が一人々溢れていました。神の家族として、言語、文化、国を打ち破った深い交わりをすることが出来ました。

ポロナイスクでのホームステイ先で起こった閉じ込められ事件は、祈りと行動力によって脱出し、また霊的に勝利した4日間の滞在でした。イエスの御名の権威の強さを改めて実感し、神様の恵みに感謝です。この事を通して、主には不可能なことは一つもない事と、これからもイエスの御名を大胆に祈っていき、この特権を主に感謝します。

リディアさんからアウトリーチが終ったあとも宣教ですよとアドバイスを頂き、帰ってきてからも神の武具を日々つけて、イエスキリストの証人として歩んでいきたいです。



このアウトリーチを通して、学院のみんな、先生方と一致団結、またとりなしての兄弟姉妹たちにハレルヤ。主の御名を褒め称え、神様に心から感謝します。

今回、CFNJ 聖書学院のサハリンアウトリーチに参加でき、感謝です。
学生のみなさんの神の兵士として戦う姿は、アウトリーチと一緒に参加しないと、わからなかったと思います。

もう毎日、毎日が濃く、濃厚な神様の恵みの日々でした。
朝のディボーションの時間から祝福され、毎朝、エペソ 6 章 14 節から 17 節を言いながら、神の武具を付けて、アウトリーチに臨みました。

ユジノサハリンスクではピーター監督のお宅でのホームステイさせて頂き、毎朝、おいしい朝食を頂いたのも、アウトリーチの力になりました！

また、朝食の時間に奥さんのリディアさんから、いろいろお話を伺えたのも、恵みでした。

ポロナイスクでも、ホームステイさせて頂いたナターシャさんにも、沢山のお話を伺えて、私には、こんなにも素晴らしい家族がサハリンにでき、感謝です。

お二人は本当に素晴らしい信仰者で、同じ女性として目標です。

普通じゃ行かない、いや、行けない山や海に連れて行ってくれた、コーリャさんにも感謝です。次回、サハリンに行く時は、コーリャさん宅に泊まりたいです！

お世話になった、エレナ先生、ビクター先生のお宅にも、風邪の為、行けなかったのが、宿題とし、次に期待します。

私たちの為に、犠牲を払ってくださった多くの方々への感謝の言葉は書ききれません。また、サハリンで受けた恵みもたくさんありすぎて、書ききれません。札幌で、とりなしの祈りで支えてくださったお一人お一人に感謝です。 帰りたい欲がなかったけど、証する為に帰ってきました！これから、キリストの証人として、サハリンアウトリーチの主の勝利を証し、またサハリンに行きます！

うちのガスは、コルサコフのガスなので、ガスを使うたび、サハリンのリバイバルを祈ります。山から見た太陽の様な赤いガス田の火は、聖霊の火となり、サハリン中を覆うのを確信しています。С п с и б о !



サハリンでのアウトリーチは、毎日、いろいろな学びの日々でした。

一番印象に残ったことは、ロシアのクリスチャンの方々の愛情あふれる温かさです。私たちは、行く先々でもてなされ、言葉は通じなくても深い愛で迎え入れていただきました。通訳の方々や Google 翻訳を通して、言葉数はとても少ないのですが、数名の方々と心を通じ合わせる事ができました。主にある家族の交わりは、単なる客人を超えていたと思います。交わりの中で、主に仕え、主と共に働く同業者という気持ちが強くなりました。

特にポロナイスクのエレイナさんと教会の方々の仕えるお姿には、頭が下がります。私たちの為に、毎日3食の美味しい食事を用意してくださり、何かしらのサプライスも毎日用意して、私たちを楽しませてくださいました。とても励まされたと同時に、私たちがアウトリーチで海外からチームを受け入れた時、ここまでもてなしていたか？と反省させられました。

CFNJ の学生さんがそれぞれに戦っている姿も印象的でした。中でもリディーマーのスキットを行ったメンバーは、戦いが大きかったようです。主に祈り、求めつつ、毎回、全力で向き合っていました。

ユジノサハリンスク前半の純潔を守る集会も印象的でした。多くの教会から沢山の若者が集まり、教会堂はいっぱいになりました。賛美やスキットで参加者の心が主に向かいました。証の時には、すっかり心が開かれており、セミナーの話を受け取る準備ができていました。最初から最後まで、聖霊に導かれた集会でした。早いうちにピュリティリングの誓いを行っても良いと思われたほどです。ユジノサハリンスクでも、若者が変えられて、主にあって清さを保てますように。

最初の日曜日の礼拝の中で思わされた事は、北海道とサハリン。近いのに遠い国同士ですが、互いのクリスチャンが交わる事で、主にあって何かができるかもしれないという期待と希望でした。日を追うにつれ、その思いは益々強くなりました。まだ、具体的に何ができるのか分かりませんが、アウトリーチで関係が終わるのではなく、祈りつつ模索していきたいと思います。



結婚記念日

22年前

ピーター監督

22年前のサリンゴ
アクトリ-サの主人

ローシャ夫妻

千歳空港にて



11日学院出発



博物館見学



コルサコフの教会



ユジノサリンスクの教会



体育館にて



ポロナイスクの門



田上姉妹お見舞い



ピュリティー・セミナー

マリノフカ村



ティクメネウオ村



メイスコイエ村



アドル夫生



藤治川先生



石田先生



ピカシー先生



エレーネ先生



鈴子先生



坂幸兄



Chris Doebeli

Report from Chris Doebeli. The man who loves the Japanese country, its people and culture. Forced to pray for a Russian Nation he don't cares for. Ok jokes aside.

The prayer meetings on Monday 13.07 and 16.07 were a very blessed time in good fellowship with other people from CFNJ. I'll try to be honest about the meetings who were somehow covered by some tiny, small black clouds inside my mind. First July the 13 is my Birthday, and I don't like Birthdays. Second and more important is the fact that K.O Chan and Masami San coined us for the prayer, two persons that who were supposed to go with the others to Sakhalin. Simply said, I was somehow disappointed that the whole thing with the two Visas did not work out. Anyway. The one point that came up in my mind again and again during the prayer and worship times is that we have to be honest, sincere about our reasons why we are serving our Lord. I'm not trying to say that any of the members had this kind of problem. I don't have my notes with me because I'm in Tokyo right now. (The bible verses was somewhere in Jeremiah. No problem I'm sure that Kaori wrote it down in her notes. Ask her) Anyway the one thing I prayed for is that each and every one member that was a part of this Outreach had the right motivation in his heart for taking part in this Mission. The reason to serve the Lord and to build his Kingdom here on earth. Everything else would be wrong. Jesus and our love for him must always be our driving power why we leave our house and family to go somewhere to serve our King.



ハレルヤ！主の御名を賛美します！⇒

とりなしの祈り（国内）チームとして、主と共に主を体験しました！

◆とりなし手の役割と祈りーエペソ 6:18-20

「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」

「祈り」「とりなし手」、それは、主のみこころが解き放たれるために必要であり、宣教と表裏一体。主の御国が前進していくための主の方法。しかし、たとえ毎日、何時間祈っていたとしても、誰の目からも見えない、まさにアウトリーチ中の現地にいるメンバーには見えない働き。しかし、そこでなされる祈りは、主ご自身が聞いてくださっており、主が見ておられ、主がその祈りに応え、主が事を成し遂げてくださる。「祈り」そのものが、天の窓を開き続けていること、現地での力となって働いていることを忘れてはならないと思わされました。また、学院で祈る私たちだけではなく、すべての教会や人々を通して捧げられた「祈り」が、アウトリーチを支えていたと強く感じます。そして今回、とりなす側に立つことによって、「祈り」が教会や人を支え、守っていること、また祈りの家の力やそこで仕える者のため祈る大切さなど、「祈り」が主の方法であることを、主は再び語っていただきました。

◆サハリンの人々や教会に対してーイザヤ 60:1-3

「起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている。しかし、あなたの上には主が輝き、その栄光があなたの上に現れる。国々はあなたの光のうちに歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。」

喜びの種を蒔く、喜びを解き放つ、その思いが込み上げてきました。既に持っている喜びの種。蒔く者に与えられる種。イザヤ 55:10-13。その種を分け与えていく。一人一人の中にもう既にある炎が、再び燃やされる。このアウトリーチチームによって燃やされた炎が、さらに燃やされ続け、他の人々へと点火していく、という思いが来ました。また、路傍伝道のため捧げた祈りでは、小さな女の子が人をかき分け走ってくる幻も見ました。サハリンにいる主の証し人たちを通して、天の御国がさらに前進していきますように。祈り続けたいです。

◆学院チームに対してー使徒 20:35「受けるよりも与えるほうが幸いである」

この「幸い」を得て帰ってくるんだ！と思いました。出発まで、それぞれの葛藤を目にしていたせいか、チーム一人一人にとっても、主の安息・解放の時となるという確信がありました。主の御業を見、主を体験し、主のみこころを主と共に行なう。主がすでに勝利された地に足を踏み入れ、勝ち取っていく。その喜びと幸いを体験して帰ってくる、そう感じました。また、一人一人名前をあげて祈る中で、これからリーダーとなる者が体験すべきものを体験する。それゆえ流す者・語る者へとようになっていく、そんな主の喜びも込み上げてきました！

主にすべての栄光を！見えない所で捧げられた祈りや献金には、主が報いてくださいますように！今いる所、歩く道々で、私たちが御国を解き放つ者となれますように！ハレルヤ ⇒

とりなしチームの証し

相田 朝美

素晴らしい主の御名を賛美します。

今回、とりなしチームの一員として北海道に残りました。チームがサハリンに旅立った日、私は大通公園へ伝道に行き、そこで若いロシア人女性に出会いました。彼女は道内の高校のロシア語教師で、3年間の滞在期間を終えてまもなく帰国するため、高速バスに乗って札幌観光に来ていました。彼女への神さまの愛と私自身の内なる人が燃やされるのを強く感じ、福音を語りました。彼女は幼い時におばあさんと一緒に教会に通っていたけれど、イエス・キリストを個人的な救い主として受け入れたことはないとのことでした。この日も福音を受け入れることはしませんでした。帰国後の祝福と救いのために祈ることを喜んでくれました。アウトリーチ第1日目に与えられたこの種蒔きの時を主に感謝し、「神さまのなされることはすべて時にかなって美しい」ことが実感できました。



(写真：大通公園伝道で出会ったサーシャと一緒に)

とりなしチームの祈り会では、特に①運転手の目と耳が守られるように、②チームメンバーの胃腸のために祈ることを示されました。また、③大通公園伝道で出会ったロシア人女性の救い、④アウトリーチを通して海外宣教への思いが与えられるメンバーが起こされること、⑤サハリンのユースがCFNJチームとの出会いを通して燃やされ主の召しに従うことができるように、⑥リーダーの守りとチームの一致のために祈りました。とりなしの2時間はあっという間で、もっともっと祈り続けたいという思いでした。リーダーの郁里さんの導きに感謝です。アウトリーチ中は毎日のようにFacebookに写真や映像がアップされていたので、まるで自分もそこにいるような感じがして、イクラやカニと一緒に堪能したような思いでした(笑)。チーム一人一人が主の栄光を反映させて輝きを放っていて、主がともに働かれているのを知ることができました。

経緯

今回の海外アウトリーチは主の導きによって石狩にとどまることになり、とりなし祈る者のチームに加えられました。私と一人の姉妹は、宗教ビザの取得がアウトリーチまで間に合うかどうか分からない危うい状態にあったのですが、結果、主によって道は閉ざされたのでした。

以前からサハリンには、特別な思いがありました。なぜなら私の祖父は幼い時、樺太に住んでいたことがあったからです。数年前から、一度サハリンに足を踏み入れることを、何度も夢見ていましたが……今回、チームと共に行けない悔しさ、自分自身のビジョンがかき消されたようなもどかしさと歯痒さを、痛いほどこの身に受けました。しかし、主は万事を益と変えて働いてくださること、災いではなく、平安を与える計画であることを信じつつ、すべてを御手にゆだねました。主よ、あなたの計画は大きすぎて、測る事が出来ません。私は愛する友のため、あなたの与えられた任務を喜んで受け取ります。

『必ず、わたしの望む事を成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる。まことに、あなたがたは喜びをもって出て行き、安らかに導かれていく。イザヤ 55:11-12(一部抜粋)』

神から与えられたみことばと祈り

『日の出る所から、その沈む所まで、わたしの名は諸国の民であがめられ、すべての場所で、わたしの名のために、きよいささげ物がささげられ、香がたかれる。わたしの名が諸国の民の間であがめられているからだ。-万軍の主は仰せられる- マラキ 1:11』

サハリンで主の御名が高くかかげられ、聖徒たちの祈りと賛美とが、絶え間なく捧げられますように。

『その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所には、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」(…中略…)父がわたしを遣わしたように、わたしたちもあなたがたを遣わします。ヨハネ 20:19-20』

イエスを知っていても、自分のために死んで蘇られたイエスに一人ひとりが出会っているでしょうか。イエスの復活の奇跡を彼ら（特に、オーソドックス教会の聖徒たち）が心から喜ぶ事が出来ますように。そして、聖霊の力を受け、全世界に福音を宣べ伝える勇士が建て上げられていきますように。

チームに与えられた預言

幸いあれ、主の勇士たち。あなたがたの進む大路は広く、あなたがたの前に立ちはだかる者は何一つない。主の力強い御手を持ってあなたがたを支えられるからだ。蛇がとぐろを巻いて道のわきに待ち伏せていたとしても、主がことごとく踏みつけてくださる。主に信頼せよ。そうすれば、あなたがたの道は揺らぐことはない。あなたの握っている物を惜しまず与えよ、与えよ。主が再びあなたを満たしてくださる。（創世記、詩編、箴言の御言葉を含む）

とりなしチームの祝福

堀本 正美

全く思いがけずビザ取得が不可能になり、とりなしチームとして残ることになった二名のうちの一人です。

アウトリーチのために準備してきたこと、期待していたことができない残念さはもちろんありましたが、ずっと平安がありました。と言うのも、この問題を初めて聞いたときすぐに「心を騒がせてはなりません」のみことばが与えられていたからです。日本では考えられないほどの初歩的なミスによることが分かったとき、しかも人事を尽くしてもその道が開かれなかったとき、これは明らかに主が閉ざされたことだと思えました。

実際にとりなしチームで集まって祈り会を持ったとき、「レビの祭司たちが立ち上がって民を祝福した。彼らの声は聞き届けられ、彼らの祈りは、主の聖なる御住まい、天に届いた。」（歴下 30：27）のみことばが強く示され、アウトリーチチームのために祝福し、祈りを捧げることがどんなに価値のあることか、そして祈りは間違いなく天に届いていること、どんな小さな祈りであっても聞かれていることを確認させられ、とりなしチームとして置かれたことの意義深さと祝福を思わされました。

と同時に私たちとりなしチームのためにも現地のチームが祈ってくださっていることを強く感じました。ですからこのアウトリーチが、現地であれ国内であれその場所を問わず、一丸となっ
てなされていること、そして主はその一致を喜び祝福してくださっていることを感じました。

第2回の祈り会では、出エジプト 17：11-12 が示され、モーセの手をささえたアロンとフルのように、霊の戦いにおいてそれをささえるとりなし手がどれほど重要なものか、再度確認させられ、とりなしチーム一人ひとりが、日本にいてもしっかりアウトリーチに参加していることをまたまた確認し合いました。

個人の生活時間でも、現地の行動予定に思いを馳せながらこの時間を過ごせたので、皆さんが無事に戻られてほっとしました。帰国したチームのお一人お一人の顔に、大きな山を乗り越えて来た強さ・逞しさが見られ、霊的祝福を沢山受けてきた喜びが満ちていたので、本当に嬉しく思いました。現地に行く事はできませんでしたが、この期間を通して十分にアウトリーチ体験ができたように思います。とりなし手として置かれたことを主に感謝します。ハレルヤ！



サ
ハ
リ
ン
の
美
し
い
山



・
山
・
山
!

主の栄光を
国々の中で語り告げよ。
その奇しいわざを、
すべての国々の民の中で。

詩篇九六・三

Mighty Warrior!!



又、踊りをもち、御名を賛美せよ！
又、バリンと立て、琴をかなでて、主にほめ歌を歌え！！

詩篇 149 = 3